

香港の水上居民と避風塘料理

日本香港協会会員 田中 紀之

香港ではかつて多くの船上生活者が存在していました。香港仔や油麻地、銅鑼湾のタイフーン・シェルター（避風塘）には所狭しと船が停泊しており、1961年の時点でその数20,572隻、人数にして136,802人の水上居民がいたと言われています。

香港は台風の多い都市であり、避風塘は元来、一般の漁船や貨物船が台風の際一時的に船を避難させる場所でしたが、結果として船を住まいとして利用する「住家艇」の混雑により本来の機能は失われ、香港政府は1960年以降、度重なる火事の発生や衛生環境の悪化、都市化の推進を理由に水上居民を公共住宅等へ移住させることとなりました。

避風塘料理とは、この水上居民を相手に供されていた料理であり、カニやエビ、貝などの新鮮な魚介類をスパイシーな調味料を使って調理したものです。代表的な料理は写真の「マッドクラブのチリガーリック炒め」ですが、ベトナムから空輸した活きたマッドクラブにニンニク、豆鼓、唐辛子をベースにした喜記秘伝の調味料をふんだんに加え炒めたものです。カニの身の甘さと辛みのある調味料が絶妙にマッチして後を引く一皿です。

喜記（ハイゲイ）は、今では香港の街中でも良く見かける避風塘料理の創始者と言われており、多くの有名人も訪れる名店です。オーナーの廖傳喜さん（愛称：喜叔）はこの道55年、避風塘での小さな船から始まり、馬師道の高架下（橋底）での屋台を経て、最終的には謝斐道に自社物件の店舗を有するまでになった立志伝中の人物です。人柄は大変気さくな方ですが、最近ではカニ養殖場の開業を進めるなど、今でもそのバイタリティには圧

倒されます。

喜記銀座店は日本一号店として2017年10月に開業いたしました。「マッドクラブのチリガーリック炒め」や「アサリの豆鼓ソース炒め」を始めとする避風塘料理に加え、自家製チャーシュー等の焼味や点心、季節の食材を数多く採り入れた老火湯など香港の美味を東京でも同じクオリティで召し上がって頂くことを目標に日々研鑽を重ねております。この機会に是非一度ご来店頂ければ幸いです。

田中紀之／株式会社田中コーポレーション（喜記銀座店運営会社）代表取締役社長



田中社長(左)と山崎浩一銀座店料理長(右)

2020年9月発行（禁断断転載）

目次

香港の水上居民と避風塘料理	1
「香港日本人学校OBOG再交流の広場」(オンライン座談会)第1回	2
私と香港ビジネス	4
フルーツ	5
国家安全維持法の施行後も香港の強みは不変	6
連合会・各協会便り	
全 国：アジアフォーラム2020 - Zoom会議	7
東 京：第2回法人会員交流会	8
関 西：難局の香港へエールを	9
中 京：令和2年上半期愛知状況について	10

九 州：コロナ禍における福岡県香港事務所の取り組みについて	11
山 形：2020年度山形日本香港協会春節イベント開催報告	12
北海道：北海道日本香港協会 会長就任ご挨拶	13
宮 城：本協会に「学生部」が誕生！様々な活動を展開しています アジアフォーラム2020に参加しました	14
沖 縄：沖縄から香港への輸出の現況について	15
広 島：広島日本香港協会について	16
新 潟：令和2年度通常総会 書面決議にて実施 新潟—香港季節定期便が2019年11月～2020年3月に運航	17
高 知：高知日本香港協会2020年度始動！	18

「香港日本人学校OBOG再交流の広場」(オンライン座談会) 第1回

ゲスト：磯田圭子さん、神吉伸幸さん、
 四方(坂井)素子さん、西井宏子さん
 司 会：伊東正裕 (NPO法人日本香港協会 広報委員)
 構 成：平野純一 (NPO法人日本香港協会 広報委員)
 撮 影：ジャッキー鶴丸 (NPO法人日本香港協会 広報委員)



(左上から時計回りに) 磯田さん、神吉さん、四方さん、平野、伊東、西井さん

伊東 本日は、1961～62年生まれで、1970年前後に香港日本人学校に通われた同級生の方々にお集まりいただきました。それぞれ香港におられた時期を教えてください。

磯田 70年4月1日～76年3月20日で、小3から中2までです。香港に行った4月1日は、よど号ハイジャック事件の翌日で羽田空港は厳戒体制でした。

神吉 69年2月～73年6月で、小1から小6までです。

四方 69年9月20日～73年4月28日。日本に帰る時は悲しくて、この日は忘れないと思って、日付まで覚えています。

西井 小1の2学期から4年の2学期までと、小6の卒業少し前から中2の終わりまで、2回いました。

——当時の香港の印象はどうでしたか。

四方 街は日本に比べると汚いという印象でしたね。

神吉 洗濯物をベランダからはみ出して干して、ポタポタと水滴が落ちてくるし、ランニングやパジャマ姿で街を歩く人もたくさんいました。

西井 クーラーの水滴もよく上から落ちてきましたよね。

磯田 当時はまだ反日感情もありました。近所の日本人の家に泥棒が入った時に警察はまず「なんだ日本人の家か」と言ったそうですから。

西井 まだ海底トンネルがなく、香港島と九龍間はフェリーで渡るしかなかった。地下鉄もありませんでしたし、今考えるとゆったりとした時代ですね。

——みなさんの家にはアマさん(註：専属のメイド)がいましたよね。

神吉 うちのアマさんは英語ができました。広東の富豪の家の出だったのですが、文化大革命の中、子供と一緒に命からがら香港に逃げてきたという話を聞きました。

四方 うちのアマさんもカタコトの英語ができましたね。

磯田 アマさんは生きたままのニワトリを買ってきて厨房で絞めて料理していました。母が驚いて、それはやめると懇願していたのを覚えています。

西井 市場でおじさんが生きたニワトリを買って自転車に載せて帰っていくのはよく見て、「ああ、これから食べられちゃうんだらうな」と思っていました。あと驚いたのは、街で纏足(てんそく)の女性を見かけたことです。

伊東 うちのアマさんも纏足でした。当時の日本人家庭は香港では上流階級だったのでしょね。両親はパーティーに出かけて、子供は家で留守番をしていました。

神吉 夜に親が乗った車が出ていくのを、ベランダから泣きながら見送っていたのを思い出します。

西井 まあ、かわいかったのね。

——日本人学校の思い出をお聞きたいです。

磯田 ビルの中に校舎がありました。運動といえば、ベランダでドッジボールをやっていました。

西井 運動会はビクトリアパークでやりましたね。先生は茨城弁の人が多かったように思いますが。

伊東 設立当初は、茨城大学教育学部から教員が派遣されていました。当時は学習塾もなかったですが、いまはあるようですね。

神吉 クラスは20～30人だったので、学習塾みたいなものでした。

西井 人数が少ないことで、逆にずっと仲良しが続いているのだと思います。いまだに小学校時代の友達とつながりがあるのは珍しい。

磯田 本当にそうですね。この縁は一生大事にしたいと思います。

神吉 幼少期に、自国と異なる習慣、文化の場所があることを学べたのは貴重な体験でした。それがあったから、大人になっても異なる習慣や文化を自然に受け入れることができたのだと思います。

西井 子供たちと先生と母親で海に親睦会に行きました。

神吉 大浪湾にキャンプも行きましたよね。香港島の奥の方だから、人が少なくてよかった。

——よく行かれたレストランはありますか。

西井 中国料理の「松竹楼」はよく行きましたね。

神吉 ハッピーバレーの近くですね。あそこの冷蔵庫に熊の手が入れてあったのを覚えていますか。

伊東 それは食べてないです。最初に茹でたピーナッツが必ず出てくるお店でしたね。

神吉 しゃぶしゃぶで、銅鑼湾のフーバーシアターのところに有名なお店がありましたね。

伊東 金網の杓で海鮮をすくって食べるお店ですね。あそこはおいしかったですね。

——香港の台風は大変ではなかったですか。

神吉 私の家は山の中腹で周りに遮るものがなく、台風でビルが揺れました。外には出られないので、家族でジ

[香港日本人学校・同級生の座談会]

グソープズルをやるのが習慣でした。あまりに揺れるので家の中で酔い止めの薬を服用していたくらいです。

西井 窓ガラスに風があたってすごい音がして怖かったですね。家から台風シグナルの旗が見えたので、学校があるのか休みになるのか、やきもきしたものです。

磯田 私の家は九龍又一村の一軒家だったのですが、一度床上浸水したことがあります。

四方 香港で大型台風慣れたので、日本に帰るとたいしたことない台風でもみんな騒いで、逆に「どうして？」って思っていました。香港では崖崩れでマンションが倒壊して、幼稚園児が亡くなるという悲しい出来事がありました。その子のおじいさまが「孫がお世話になったから」と本を寄付してくださり、名前を冠した「文庫」ができたんです。私は図書委員でしたので、よく覚えています。

——磯田さんは香港で雑誌の表紙に載ったそうですね。

磯田 はい。新聞の日曜版別冊の表紙に載りました。スクールバスから降りてきたところの写真を撮られたのですが、すっかり忘れていたところ、後日、父の広東語の先生から電話があって「圭子ちゃんが出てるよ」と。

伊東 本人に断りなく写真が使われたんですね。

磯田 はい。まさか表紙一面に大きく載っているとは思いませんでしたが、ちょっとしたスター気分でした。近所の美容院などでその雑誌をもらって、日本の祖母にも送りましたが、遺品の中にその雑誌があったんです。

——みなさんが考える、香港の魅力とは何でしょうか。

神吉 香港は元気な人が多いという印象です。前向きに生きている人が多い。バイタリティーにあふれている場所ですね。

西井 エネルギッシュな街ですね。同じ東洋なので日本人には違和感がないし、言葉は英語が通じる。あと昔は物価がすごく安かった。中国料理はおいしいし、気軽さ、安さ、そして住みやすい場所というイメージです。

伊東 西井さんはお仕事でも行かれていますね。

西井 はい。88~89年に当時勤めていた米系証券会社の香港支店にいました。やはり昔住んでいたところだから馴染みやすかったし、本当はもっといたかったんですけど。

四方 日本では見たこともない豪華な家を見て、こんな生活があるんだと知った一方で、貧しい人もたくさん見ました。アバディーンには水上生活者がいて、白人男性が水上レストランの2階から1ドルコインを海に投げます。すると、男の子が飛び込んでコインを拾いにいく。それを見て白人男性が笑うんです。ものすごい貧富の差を目の当たりにしました。

磯田 当時はインターネットもなく、日本とは遮断されていたので、自然と香港が自分の故郷になりましたね。

——直近で香港に行ったのはいつでしょうか。

四方 私は90年に行ったのが最後です。新空港は利用したことがなく、啓徳空港しか知らないです。

神吉 私は2011年。当時広州に住んでいて、同僚の日本人駐在員と一緒にご飯を食べに行こうと時々香港を訪れていました。中国料理は広州もおいしいですが、やはり香港は別格です。香港で日本料理が食べたいと言う人もいましたが、私からすると「なぜっ？」という感じですね。

西井 2015年に妹と姪の3人で行きました。大好きな飲茶に行きましたが、いまはワゴンで運んでくれるお店が少ないんですよね。あれば寂しいです。

磯田 2017年にコンサートで行きました。着陸後空港隣のコンサート会場に直行し隣接するホテルに宿泊、翌朝バンコクへ飛んだのでランタオ島を出ていません(笑)。

——みなさんの香港に対する思いとは。

神吉 最近、社会が揺れているようですが、若い人が希望を持てる場所であって欲しい。香港の人はしたたかです。実利的だから、政治抜きでうまくやってくれるものと期待しています。

西井 この何年かはデモがあって、行きたくても行けない感じでしたが、香港が香港でなくなってしまうのは嫌ですね。今のようになる前の香港にまた遊びに行きたい。

四方 私は80年代の香港が一番好きなんです。20代になり自分で働いたお金で行った香港にまた出たいと思います。それはもう難しいのかもしれないですね。

磯田 私は90年代かな。当時の香港は、ショッピング、美容、グルメ等女子の好きなものが揃っていました。香港は私の第二の故郷以上の存在ですが、デモや新型コロナの影響で、次はいつ行けるかちょっと心配ですね。昔は香港の人たちは自らを「広東人」と呼んでいましたが、今では「香港人」になりました。それだけ大陸の人とは一線を画すという意識が強くなったのかもしれない。

伊東 今の香港人にとって、日本は憧れの場所で、去年は人口の約1/3に当たる229万人もの人が日本を訪れています。日本語学習熱も高まるなど親日度がアップしています。一方で日本から香港に旅行する人は約100万人強、100人に一人もいない計算になります。香港を知り香港を愛するみなさんをはじめ、我々日本人が再び安心して香港を訪れることができるようになればいいですね。本日は、どうもありがとうございました。



香港日本人学校小学部3年生クラス集合写真(1970年4月)

私と香港ビジネス

NPO法人日本香港協会 理事 大野 雅明

「香港は何て刺激的なんだ」これが私の香港赴任直後の印象だった。2013年3月それまで3回の赴任を繰り返した台湾（台北）で急遽、香港赴任の辞令を受取り、前任社長が至急本社に戻らねばならなくなった事で、本社での赴任打合せも無きまま、台北から横滑り、バタバタでの香港赴任となった。

香港にはそれまで幾度も出張では足を運んでいたが、やはり赴任となると香港への受け止めも違い、台北と比べ刺激的で街全体が活気に満ち溢れており、私自身の中でもやる気と希望が膨らんでいた。

ところが、実際仕事の引継ぎを終え自分で仕事を始めると香港の現実が見え始めた。

まずは歓送迎会の席での事である。各スタッフが最初の儀礼的な乾杯を終えると、続々と私の周りに集まってくる。「社長はこの香港の店をどの様にするつもりなのですか？」と尋ねて来る。訳の分からない私は「みんな頑張ろう」と日本人的発言をした様に記憶しているが、どうも各スタッフは私が香港の店のリストラの為に送られてきたものと勘違いしていた様である。暫くして分かった事だが、店の駐在員、スタッフ達に営業は毎日中国出張で香港不在、香港の店に残っているのは、営業以外のスタッフばかり。またスタッフの人数も減り始めており、香港スタッフの将来への不安は極限に達していたのである。しかしながら一方、以前より香港のメーカー（工場群）は殆ど全て中国大陸に工場を移しており、自然この客相手に仕事をするとなれば香港スタッフは中国へ出張するか、中国へ移駐する事となり、これは致し方の無い流れであった。

このような中、私自身も香港の店のファンクションと仕事の進め方に就いて真剣に悩み始める日々と格闘する事になるのである。先ず私がスタッフに訴えたのは、広州の店を中心とした華南地区との一体運営である。香港人は中国は嫌いだ、不思議と広州の人間には親しみを感じており、北京、上海に対する感情と全く違うものを

持っている。これは歴史的な経緯もある。また広州～香港間は九廣鐵路もあり、お互いの往来にも歴史がある点大きい。全ての駐在員会議及び事業会社の会議を華南全体で行い、お互いのビジネスを創造していくのである。結果これはこれで随分成功したのではと自負している。

併せてこの時期に香港経済界は中国政府と一緒に①一帯一路、②大湾区政策の原案を打ち出してきた。この政策が現実的かどうか、香港がこれにどう絡めるかは別にして、この香港・中国の一体化政策に香港経済界が今後の香港をかけていたのは事実である。ご存知のごとく、香港立法会は経済界が牛耳っている。したがって香港政府、中国政府も香港経済界の言っている事にしか耳を傾けない。一般民衆がいくら中国嫌いで、香港独立等を訴えても、経済の実態は香港・中国の一体化を止め様も無く、この様な香港政府、経済界及び香港の一般民衆の考えの違いに内包された矛盾が爆発し、2014年9月に始まった香港の若者を中心とした雨傘運動に発展していくのである。

弊社香港オフィスは雨傘運動の舞台となった香港政庁の近くだった事もあり、確か2ヶ月程は道路も使えず出勤にも支障をきたし随分閉口した覚えがある。私自身の頭の中では香港の若者を応援する気持ちもあったが、仕事の上では困ったものであった。

ここで我々が今日の香港情勢を考えるに当たり、先程も述べた様に香港という街は一般民衆の考えと、経済界の考えが違うという事を意識せねばならない。立法会も経済界が支配しているという事は、政府も自然と経済界寄りの考えになるのである。今回の国家安全法の制定に当たっても、中国政府、香港政府は一般民衆の考え方を重々承知しながらも、やはり香港経済界の考えに従ったものだと思う。

一方本法律の制定で香港民衆の人権、自由が侵される事は間違いなく、これが今後の香港、華南、ひいては中国にどのような形で影響を与えていくか注視していく必要がある。一般的に日本のマスコミは香港民衆の味方をする記事が多いが、香港の現実とはこの様に全てが香港経済界中心に動いており、一般民衆の考え方とは違う尺度で動いてきた街であるという事を認識すべきだと思う。

そして我々も、この香港の光と影の部分を見つめて、香港の将来を考えていかなければ中々香港でのビジネスは難しいのである。私は現在、日本香港協会のビジネス交流委員に就任しているが、委員会を通じ会員の皆様と冷静に現在の香港を見つめ、今後の香港ビジネスを議論出来る事を心から願っている。

愛する香港の為に。香港加油！



香港日本人商工会議所と中国外交部駐香港特別行政區特派員公署との昼食交流会
(後列左から2人目が筆者)

フルーツ

NPO 法人日本香港協会 広報委員 塚本 勝弘



昔も今も香港にはフルーツが充実している（写真：小柳淳）

1960年代前半、日本はまだ海外旅行も自由化されておらず、手持ち外貨の不足から輸入も生活必需品を除き極度に制限されていた。外国産果物などは贅沢品の部類、庶民の口からは遠い存在で、グレープフルーツですら料亭での宴会料理の口直しとして幅を利かせている始末だった。1964年に香港に初赴任した私にとって、そんな環境から香港へ足を踏み入れて目を見張ったものである。果物屋の店頭には四季を通じて世界中から輸入された様々な果物が何気なく陳列されているではないか。パイナップル、マンゴー、ドリアン、ライチなどなど。まだまだ高層住宅団地が開発される前の沙田駅前の商店街の軒先にずらりと吊り下げられた木瓜が今でも目に浮かぶ。木瓜＝パイナップルなのだが、聞いたことはあっても見たことはなかった。その同一性に気付くまで少々時間を要した。

そうしたなかで、秋口に入ると店頭姿を現すのが「ハーマッコア」である。漢字で書くと「哈密瓜」。中国の最西端部に位置する新疆ウイグル自治区に同名の土地、哈密（ハミ）があり、その特産品である。当時、中国の空輸便は未発達であったから、香港までは専ら貨物列車便で途中で積み替えを重ねてきたのかもしれない。現MTRの東鐵線は当時KCRこと九廣鐵路といわれ、貨物列車が大陸から直通していた。中国の西北と東南の両極地の間は正確ではないが、4～5千キロの長距離で少なくとも1週間やそこらの旅だったろう。出発地で貨車に乗せた時に完熟していれば、香港の到着時には過熟状態で商品価値は大幅に低下

する。輸送中の熟成度を予測して、本来より早めに採取したに違いない。

ここで、当時の軍国少年が誰から教えられたわけでもなし、耳から入るままに聞き覚えた戯れ歌がある。正式の題名は不明だが、その内容から勝手に付するとすれば、潜水艦乗組員哀歌（サブマリーナクルーエレジー）とでもしておこうか。“可愛い魚雷と一緒に積んだ青いバナナも黄色く熟れる。男所帯は気ままなものよ。髭も生えまじ、髭も生えまじ無精髭”。潜水艦にバナナや魚雷を積んでいるうちはまだよい。ミサイルなど積まれては、物騒極まりない。

ところで、瓜（ウリ）とよく似た正にうり二つの漢字は瓜（ツメ）である。いざ書くとみると、どちらがどちらだったか一瞬迷いかねない。そんな時、ふと思い出すのは子供の頃、母親が口にする“瓜”にツメなし、“瓜”にツメありの名文句だ。ここでツメとは瓜字の中心の縦線下部の付着物であることは言うに及ぶまい。ついでもうひとつ似た文字の弁別方法として一例がある。巳（ミ）は上に、已（イ）は中ほど、己（コ）は下にだ。昔から先輩たちも、紛らわしい文字の区別には苦勞していたようだ。

※…KCR貨物列車は長い間、大陸と香港の間を結んでいた。大陸側始発駅は鄭州、武漢、石家荘などでありどれも長距離列車であった。生きた家畜を運ぶ貨車もありその列車通過時にはかなりの臭いがしたという。貨物列車は1997年の香港返還後も運転を続けたが、旅客列車に比べて相対的に速度の遅い貨物列車は過密化する列車ダイヤのなかでの運転に無理があること、他の輸送方法が整備されてきたことなどにより2010年に廃止となった。



九廣鐵路の貨物列車。大圍駅付近にて、1997年撮影（写真：小柳淳）

国家安全維持法の施行後も香港の強みは不変

香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部 首席代表 翁佩雯（シェリー・ヨン）

香港と日本は、長年にわたり多方面で密接な関係を築いてきました。貿易面で日本は香港にとって4番目のパートナーであり、香港は日本にとって9番目のパートナーです。香港では約1,400社の日系企業が事業を営んでおり、その数は外資系企業のうち国別で最多です。また、過去15年間、香港は日本の農林水産物および食品の輸出先として首位を守っており、その額は全体の約4分の1を占めています。

6月30日に「香港特別行政区国家安全維持法」（香港国安法）が公布されたことに伴い、ビジネスへの影響等について懸念が示されていることは承知しています。こうした懸念に対して香港国安法の背景と主な特徴をご説明し、同法は、国際的なビジネスと金融のハブとしての香港の繁栄を支えてきた「一国二制度」を変えるものではないということをお伝えしたいと思います。

この1年間、香港では暴力と破壊行為が激しさを増し、社会不安が高まっていました。香港国安法はこのような状況を鑑みて、香港で国家の安全を守り、社会の秩序を回復することを目的に制定、施行されました。

法律によって国家の安全を守ることは国際的な慣行であり、どの国も独自の国家安全法と関連の執行機関を有しています。香港特別行政区は中華人民共和国の不可分の一部であり、高度な自治を享受する地方行政区です。香港特別行政区が直面する国家安全上のリスクの顕著な高まりを鑑みれば、国レベルでの国家安全法の制定は、香港における国家安全上の抜け穴をふさぐために必要であり、それも緊急に行わなければならないことでした。

多くの国の国家安全法が広範囲にわたるものであるのに対し、香港国安法は4種類の行為と活動のみを犯罪としています。すなわち、国家分裂、国家政権転覆、テロ活動、外国あるいは外部の勢力と結託して国家の安全を脅かすことの4つです。言い換えれば、同法はこれら4種類の特定の罪を意図的に犯すごく少数の人々のみを対象としているわけで、一方、海外投資家を含め、圧倒的多数の香港住民の生命、財産、基本的権利と自由は守られます。

香港国安法第1章には、基本法、また香港に適用されている国際規約の関連規定の下で香港住民が享受するさまざまな権利と自由（言論、報道、出版、結社、集会、行進、デモの自由を含む）は保護される、と明確に定められています。同法はまた、国家の安全を守るにあたり、香港特別行政区は法の支配の原則を遵守しなければならないと強調しています。法の支配の原則には、無罪推定、罪刑法定主義、司法手続きにおける被疑者の権利保護等が含まれ

ます。同法は香港住民による言論の自由の適切な行使や、政府の政策あるいはガバナンスの批判に影響を及ぼすものではありません。

香港国安法の実施は香港の既存の法制度に適合しており、終審権を含め香港の独立した司法権には影響しません。香港特別行政区の管轄下における国家の安全を害する犯罪事案に関する手続きは、香港特別行政区の現行の司法手続きに則って行われます。司法局は引き続き、その刑事追迫業務において干渉を受けることはありません。

香港国安法の制定後、香港の金融市場は円滑に機能し続け、これまでと同じく活気に溢れています。香港ドルの為替レートは引き続き安定しており、銀行システムからの著しい資金流出は一切見られません。むしろ6月以降、香港には110億米ドルを超える資金が流入しており、銀行の預金残高は増え続けています。株式市場の活気と秩序も変わらぬまま、絶えることのない新規株式公開（IPO）活動が投資家の関心を集めています。

香港は自由で開かれた社会であり、国際的なビジネスと金融の中心地としての香港の成功は、法の支配、司法の独立、情報と資本の自由な流れ、言論や表現の自由などがあってこそのものであります。そして、これらの基本的価値は香港国安法の下で守られています。「一国二制度」というユニークな仕組みから生まれる香港の制度的な強みと競争力は、全く損なわれることはありません。

良好なビジネス・投資環境は、安全な社会によってもたらされます。すべての関係者が力を合わせれば、香港で国家の安全、繁栄と安定、そして市場の活力のどれもが十分に達成でき、地元企業や外国投資家にとってもより強固な基盤が築かれて、さらなるビジネスチャンスが生まれるということ、きっと時間が証明することでしょう。

香港国安法のさらなる詳細については、下記の冊子をご覧ください。

https://www.isd.gov.hk/nationalsecurity/eng/pdf/NSL_QnA_Book.pdf





日本香港協会全国連合会 事務局

アジアフォーラム2020 – Zoom会議

去る6月16日(火)香港ビジネス協会世界連盟(Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide, 以下 Federation) 主催のアジアフォーラム2020がZoom会議の形式で開催されました。香港フォーラムが全世界の香港ビジネス協会が香港に集う世界大会であるのに対して、アジアフォーラムは、世界にある3地域の中の、アジア・オセアニア地区に所属する Federation加盟国の中から、毎年ホストとなる国の一都市が選出され、その都市で開催される会員のためのイベントになります。毎年選ばれた都市で2日間、会合やブレインストーミングなどを行うことで、開催都市における香港へ通じる新しいプラットフォームの実現を目指し、アジア地区の会員のネットワークや情報交換が行われます。かつて2013年5月には、日本がホストに選ばれ、沖縄県名護市で開催された歴史もあります。

今年のアジアフォーラムは、コロナウイルスの影響により、ホスト国を設けず、Zoom会議の形式で開催されました。会議は香港時間午前10時(日本時間午前11時)に始まり、アジア・オセアニア地区の協会から合計51名の代表者ならびに会員の皆様に参加され、日本からは全国連合会および3協会(関西協会、宮城協会、広島協会)から合計7名の皆様にご出席いただきました。

会議では、香港貿易発展局シンガポール事務所長のビビアン・チー氏がモデレーターを担当、香港ビジネス協会世界連盟会長のデニス・チュー氏による歓迎挨拶にはじまり、香港貿易発展局研究部総監のニコラス・クワン氏による「香港最新経済状況」についてのプレゼンテーション、その後、香港貿易発展局東南アジア・南アジア

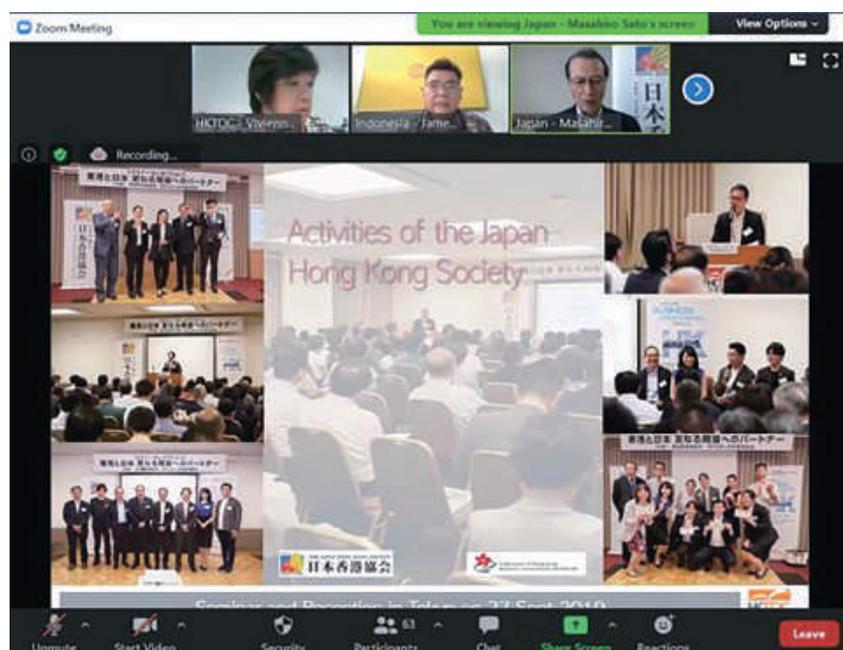
地区首席代表のピーター・ウォン氏による「アジア・オセアニア地域における香港貿易発展局のプロモーション活動の最新情報」と題してプレゼンテーションがありました。

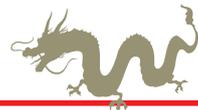
続いての討論セッション1では、アジア・オセアニア地区13か国(カンボジア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド、日本)の各国協会の代表者から、それぞれの地域における最新情報や活動状況について、報告がなされました。日本からは、日本香港協会11協会を代表して、全国連合会佐藤征洋会長より、各地協会の活動について、東京協会の理事刷新、宮城、関西協会の若手会員による各種活動、北海道、山形、高知協会の新会長の紹介等を盛り込んだパワーポイントによるプレゼンテーションは、参加者からの注目を集めました。

この後、討論セッション2では、Federation事務局のアイリーン・ハウ氏より今年度12月に開催予定の香港フォーラムについてのスポンサーシップと最新プログラムについての紹介があり、地域間のコミュニケーションの強化、Federation会員登録の推進、若手グループの組織化等ユースメンバー増強のための取り組みや提案について、各国の参加者間で積極的な意見交換が行われ、会議は無事に終了しました。

今回の会議には、佐藤連合会会長には香港貿易発展局東京事務所から、関西協会戒田真幸会長、田岡敬造事務局長、山本辰久理事の3名の皆様には香港貿易発展局大阪事務所からご参加いただいたほか、宮城協会の高橋洋人事務局次長、広島協会事務局の木村将隆氏と榎田祐子氏がそれぞれの地域を代表して参加されました。

オンライン形式のフォーラム開催は、今回が初めての試みでしたが、日本全国各地からにとどまらず、海外各地からの参加者の皆様がネットを通じて一堂に会することができる貴重な機会となりました。Federationのメンバーが、それぞれの地域から移動することなく参加できるオンライン会議やウェビナーを今後も幅広く活用することで、コロナ禍においても地域間のコミュニケーションと連携の強化が図れることが立証されましたので、日本香港協会全国連合会事務局としましても、皆様のお役に立てるような情報発信をできるイベントを、これからも数多く開催していきたいと考えております。引き続き、各地協会メンバーの皆様から多数のご参加をお待ち申し上げます。





第2回法人会員交流会

日本香港協会ビジネス交流委員会では昨年秋に法人会員交流会を開いて以来、本来今春に開催を予定していた第2回の交流会を新型コロナウイルスの影響で、暫く開けずにおりました。しかしながら、これ以上遅れるわけにはいかないという判断から、6月10日にZoomでのオンライン方式での開催に踏み切り、法人会員7社（8名）、理事11名に加え、広島日本香港協会と宮城日本香港協会からの3名の参加も含め総勢22名が参加し、盛況のうちに幕を閉じました。

オンラインによる開催は初の試みで、司会、挨拶、講演の方々はそれぞれ別会場からのライブ出演という形になりましたが、冒頭に前ビジネス交流委員長を務められた佐藤会長の開会挨拶で定刻通り開始することができました。今回はゲストスピーカーとして、香港日本人商工会議所事務局長兼香港日本人倶楽部事務局長の柳生政一氏に加え、新規法人会員として入会した順豊エクスプレスの林宏才（Kason Lam）氏をお迎えして、ご講演頂きました。

柳生局長からは“香港を取り巻くビジネス環境”をテーマにお話し頂きました。昨年来の逃亡犯条例とデモ活動、新型コロナウイルス蔓延の問題、また新たな火種となった国家安全法の制定など注目を集めるテーマが多々あり、短時間では聞ききれない興味深いお話が盛りだくさんの内容でした。香港政府による新型コロナウイルス対策は、逃亡犯条例とそれにまつわるデモ活動における対応と比較すると、SARSの経験が活かされたこともあって極めて迅速で、どの国よりも効率的に新型コロナウイルスの鎮静化が出来た背景などについて理解が深まりました。また中国本土政府が制定した国家安全法がもたらす香港に進出している日本企業への影響につ

ては、ビジネス環境の安定化という意味ではポジティブではあるものの、中国政府として一国二制度の堅持をより明確に宣言することで進出企業を安心させて欲しいとのコメントから、現地ならではの肌感覚がこちらに伝わって来て、大変興味深いものとなりました。国家安全法によって、香港がこれからどの方向に向かうのかについては、多くの参加者からも質問が寄せられましたが、個人的にも興味があり、是非また柳生氏から最新情報を伺いたいと思った次第です。

また林氏からは“香港を活用した中国ECビジネスの物流戦略”というテーマでお話し頂きました。中国におけるNo.1の国際宅配サービス会社として、日本から香港を経由した中国への越境ECビジネスをどのように進めたらよいかについて、分かり易く解説いただきました。日本から香港はB2Bのバルク物流、香港から中国本土顧客向けにはB2Cの小口配達、これを組み合わせるのが最良の方法であるとの説明は、今後日本から中国の消費者へのビジネスを拡大しようとしている企業にとって大変参考になったものと思います。順豊エクスプレスは自社の貨物専用機を中国国内に66機保有しており、その輸送ネットワークのスケールには驚かされましたが、ヤマト運輸とのコラボ関係や華南地域に拠点を持つ法人会員企業も実際に同社のサービスを利用しているとのことでした。中国との間で越境ECビジネスを展開したいと考えている企業にとりましては、今回の講演から、すぐにでも具体的な商売が始められるのではといった期待が高まったのではないかと思います。

今回は初めての試みとなりましたが、Zoomを利用したオンライン交流会のメリットとしては、香港のビジネス現場からの「最新のナマの声」と、香港を活用した具体的なビジネスモデルについて、東京の法人会員・理事のみならず広島、仙台、更には中国本土在住の方々へも

ライブ配信ができたことです。また、通常のリアルの法人会員交流会では実現不可能なネットワークの広がりも実現できたと感じております。幸い交流会終了時に参加された皆様からのアンケートの評価でも殆どの方から合格点を頂いたことは主催者側にとっても大変嬉しいことでした。今回の法人会員交流会も法人会員の皆様に少しでもお役に立てるよう努力したいと考えておりますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。



THE JAPAN HONG KONG SOCIETY
日本香港協会

【NPO法人日本香港協会】
第二回法人会員交流会
(ZOOM会議)
6月10日(水)

15:30PM ~
(香港時間14:30PM~)



順豊エクスプレス株式会社
営業部ビジネス開発スペシャリスト

林宏才 氏



香港日本人商工会議所事務局長
兼 香港日本人倶楽部事務局長

柳生政一 氏



関西日本香港協会 会長 戒田 真幸

難局の香港へエールを

香港の人達は、「中国はビッグ・ドラゴン、香港はスピード・ドラゴン」と言っている。3年前の香港フォーラムに参加した際にE-tailing Summitに参加した。若い女性のベンチャー起業家が5年前にアジアの7ヶ国を対象にしたE-commerceの会社をドイツの企業に出資してもらって設立したが、ビジネス対象のマーケットからアジアで最大の経済国、中国と日本を外した。中国と日本は規制が多く何をしても遅い。このITビジネスは熾烈な国際競争の下、変化が速いので動きの遅い相手とは一緒に仕事が出来ない。「スピードが命」と思って仕事をしている、と言っていたのが印象深かった。

また、サミットで配られた冊子に顔写真入りで紹介された50人の成功しているベンチャー起業家の中で19人が女性経営者であったことにも感心した。香港の行政長官は女性のキャリー・ラムさん、香港貿易発展局の総裁マーガレット・フォンさんも女性、香港フォーラムはほとんど女性スタッフで運営されている。私がヘッジファンドの役員をしている香港の金融グループは台湾の銀行オーナーの息子が経営者で、核になる会社のヘッジファンドの他に証券会社、投資銀行、投資顧問会社も所有し、顧客の全ての金融ニーズに応えられる体制になっている。ヘッジファンドの営業トップ、グループの事務所を統括するオフィス・マネジャーも女性、台湾の支店の営業担当者も大半は女性、優秀な女性社員が男性と対等に活躍している。香港は「女性が輝く社会」になっているのがよく分かる。少子高齢化社会の進展で経済の活力が失われることが懸念される日本でも、政府は「女性が輝く社会の実現」を大きな目標にしている。女性の持つ潜在的な能力が十分に発揮できるような社会になれば、少子高齢化によるマイナス部分もかなりカバーされることだろう。

昨年12月に中国の武漢で新型コロナウイルスの感染が発生し、半年ほどの間に世界中に感染が拡大、日本も第二次感染拡大期に入ったような状況になりCOVID-19が日本の社会・経済体制の将来を揺るがす深刻な大問題になっている。COVID-19に対しても、さすが「スピード・ドラゴン」の香港政府対応は速かった。今年1月25日に武漢発列車、航空便の停止、中国の他都市からの来航者に健康状態の申告書提出を求めることにして、キャリー・ラム行政長官が強固な意志で団結して新型コロナウイルスと戦うことを宣言、2月14日に21項目、予算規模100億香港ドル（1,400億円）の経済支援策を発表、3月10日に海外からの入国者を2週間隔離する方針を4月10日から実施すると発表、3月25日に5人以上の集会を禁止、8人までの集会が認められている（7

月中旬現在)。給与の補償を与える会社経営者に補償期間中の従業員の解雇を禁止し、発表後数日で補償小切手が支払われたと聞いている。やることが明快で速い。

新型コロナウイルス問題が発生した香港で、中国による香港国家安全維持法制定、国家安全維持委員会と国家安全維持公署の設立が発表され、香港の一国二制度を揺るがす事態になった。

これまで国際金融都市、アジアの物流拠点である香港が中国の近代化に多大な貢献をし、世界が必要としているスーパー・シティ香港がこの問題で新たな難局に直面している。

米国政府が真っ先に香港人権・民主主義法を上院で可決し、香港を支援する態度を表明、中国と対立している。英国と台湾も、香港人の移住を積極的に支援する方針を打ち出した。優秀でよく働く香港人の受け入れを増やす意図もあるように思われる。これから経済的に発展するのはアジア。このアジアで経済の実権を握っているのが華人ネットワーク。アジアのビジネス拠点が香港。日本香港協会が所属する香港ビジネス協会世界連盟の国際的なネットワークにアジアの華人ネットワークが含まれている。日本香港協会は一般の人達にとってこの華人ネットワークの入口だと思っている。香港は優秀な人材が豊富で人付き合いを大事にしている。香港に勤務して以来30年以上になるが、今でも香港の友人と親しくお付き合いをしている。香港人がアジアで一番好きな国民は日本人だ。好意を持ってくれている香港人とはこれからも仲良く大事にお付き合いしていきたい。香港の政局が安定して従来通りの自由な経済活動ができる香港になることを願い、難局にある香港に世界の人達と一緒にエールを送りたい。



香港の友人主催のフォーラム参加者歓迎夕食会（外国人記者クラブにて）



中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

令和2年上半期愛知状況について

2020年は庚年の年回りと言われ、経済界も繁栄が期待されると新年のパーティーでは会員（企業、個人共）の出席者も数多くみられ、名刺交換や親睦会も盛大に実施された。それが2月14日のことで、当協会としても今後1年間創建の船出となるはずだったのだが、新型コロナウイルス感染が徐々に愛知県内でも周知されるようになり、セントレア空港から香港への渡航も制限される現実となった。

香港においても、中国の国家安全法の施行によってデモが制限付きとはいえ活発化するようになり、愛知からの旅行者も気軽に渡航ができない状態となった。企業の香港出張も縮小されるケースが目立ってきた。

香港に住む友人の話では、7月15日から開催予定だったブックフェアに参加を予定していたが、今年は延期になったとの連絡があった。やはり香港も新型コロナウイルスの影響が大きく、この先も外出自粛など窮屈な生活が続くだろうと返事があった。

香港は1984年英中共同声明により1997年に英国から中国に返還され、中国は外交、防衛問題除き香港には自治権を与え50年間資本主義と生活様式に干渉しないと。なので、現地での会議のため訪港したときも、雨傘運動（2014年）や逃亡犯条例改正反対（2019年）で起きたデモの現場に直面したが、特に問題は感ぜられなかった、と記憶している。

しかし、今回の新型コロナウイルス問題では、Made in Chinaのタグ小売商品が日程どおり届かなくなり、小

生も物販店から依頼されている商品の入荷が遅延。不便さを余儀なくされているのが現状だ。

新型コロナウイルスの影響は中小企業や若者にも大きく影響が出ている。また当協会にも年配層グループ旅行に関する問い合わせが増え、会員の間でもその話がもろもりとなっている。

そのさなかに、7月15日の定例理事会が名古屋商工会議所にて実施された。理事22名が出席し、上半期、下半期の事業企画をどうするか討議した。中京日本香港協会としては1990年から数えて30年の歴史を迎える節目として、会員同士の親睦会は実施したいと提案した。だが、新型コロナウイルスの現状を見れば、中止ではなく延期にすべき、また10月までに収束する気配であれば再考するとの条件で、理事への案内を出すにとどめた。現在、当協会は個人会員48名、賛助会員5名、法人企業会員13社で活動を行っている。この新型コロナウイルスの難局にあたって、総会1回、理事会年6回、親睦旅行1回というスケジュールをなんとか乗り切っていきたいと思う。

香港も、かつて故鄧小平が国際社会に約束した50年間の「一国（二）制度」の行く末や、最近の新型コロナウイルスによる社会活動への影響が出て、その香港と我々はどのように付き合っていくのか。国家安全法の施行が我々のビジネス活動に影響するかもしれないとはいえ、そうしたことは関係なしに、東海3県の中でうまくバランスをとっていくことが要求されるのではないだろうか。何とか日本と香港の安寧な経済、文化の交流に努めてゆきたいものである。



香港ビクトリアハーバーの夜景 2019.12 (写真：小柳淳)



福岡県香港事務所 所長 山崎 智幸

コロナ禍における福岡県香港事務所の取り組みについて

◆はじめに

香港では、7月中旬からコロナの新規感染者が100人以上を記録する日が続いており、7月に開催予定であった香港ブックフェアは延期、8月に開催予定であった香港国際旅行展示会（ITE）は中止になるなど、香港における企業活動への影響は大きい。旅客便再開までは、香港人の訪日旅行も難しい状況にあるが、日本から香港への農水産物輸出は航空貨物便や船便で継続されており、香港のスーパーでは、旬の果物はじめ多くの日本産品がこれまでと同様に店頭と並んでいる。この様な状況下で、訪日旅行を心待ちにしている香港人に対して、如何に福岡県産の農水産物や県内企業の商品PRを行うかが当事務所にとって大きな課題といえる。



店頭と並ぶ八女産の巨峰
(5月30日筆者撮影)

◆香港事務所の取り組み

香港では福岡の食材が比較的容易に手に入るため、当事務所では、香港へ進出している県内企業と連携しながら、香港にしながら福岡の食材を楽しめる機会を創出することにより、県産品の輸出・消費拡大を目指している。6月から、フランスの老舗「ダロワイヨ」とのコラボで、八女抹茶、あまおうジャム、みそらぼ（飯塚市）のアップルシナモン味噌、能古島産甘夏などの県産食材が採用された「福岡アフタヌーンティーセット」の提供を行っている。非常に好評で連日売り切れが続いたため、開催期間を当初予定の2週間から8月末まで、2か月間の期間延長が決定。このティーセットは、ラグジュアリーライフスタイル雑誌『Tatler HONG KONG』でも紹介されるなど、県産品のみならず、富裕層向けインバウンドの面からも絶好のPRの機会となった。



ダロワイヨ 福岡限定アフタヌーンティーセット

香港系の日本食

レストラン「米気」では、6月11日から2週間の期間限定で福岡定食を提供。はかた地鶏のつくね、鱈卵屋の明太子ご飯、茅乃舎の出汁を使った出汁巻き卵などの福岡県産の食材が採用され、福岡への旅行を待ち望んでいる



米気の福岡限定定食

香港の地元客で連日賑わった。特に、メインディッシュのはかた地鶏のつくねは265皿の注文があるなど大変好評であった。米気の店舗入口には福岡県の観光パンフレットやポスターに加え、観光PR動画を流すことで、食事と福岡の観光をセットでお楽しみ頂いた。

レストランでのイベント以外では、6月に現地スーパーYATA（一田）各店で福岡県産スイートコーンのPRを行ったり、7月にはAEON各店で福岡県産の巨峰や野菜類のPRを行ったりするなど、積極的なPRを行っている。

さらに、航空会社や旅行会社ともアフターコロナを見据えた情報発信を展開している。コロナ前は香港と福岡の間に毎日5便の直行便があり、そのうち3便を運行していた香港エクスプレスからは、同社フェイスブックで就航地からのメッセージ動画を投稿したいとの依頼があった。世界各地に就航地がある中で、福岡県の動画が最初に紹介され1.8万回再生されるなど、本県への期待と関心の高さがうかがえた。



香港エクスプレスfacebook

◆今後の見通し

香港は、本県及び県内企業にとって農水産物の主要輸出先であり、インバウンドにおいても個人旅行（FIT）客メインでリピート率が高い重要な市場である。渡航制限がある中、台湾や韓国などとの競争も激しい香港において、如何に福岡県や県内企業の商品をPRし、その魅力を伝えていくかが大きな課題といえる。現状、香港におけるコロナの新規感染は収束の目処が立っていないが、香港経済の回復においては、今後の香港版国家安全法に関連したデモ活動の行方にも注視していきたい。



山形日本香港協会 事務局長 長沢 侑

2020年度山形日本香港協会 春節イベント開催報告

去る2020年2月22日（土）、ホテルメトロポリタン山形を会場として、山形日本香港協会の理事会・総会、2020年度の春節セミナー及び春節イベントを開催いたしましたので、ご報告いたします。

理事会・総会においては、香港貿易発展局の伊東正裕東京事務所長、香港日本人商工会議所・香港日本人倶楽部の柳生政一事務局長をオブザーバーにお迎えし、また、多数の協会員の方々にご参加をいただき、開催することができました。理事会・総会では、2019年度の活動報告及び収支報告、そして2020年度の活動計画及び予算が承認されました。2020年度の当協会の活動として、協会員はもちろんのこと、香港を中心に海外でのビジネス展開や起業を考えている方々を対象として、企業の経営者や有識者をお招きしての勉強会を期中に数回開催することを計画しております。しかしながら、新型コロナウイルスの影響が無視できない状況ですので、専門家の意見を尊重のうえ、目まぐるしく変化する状況を注視しながら、また、香港貿易発展局や日本香港協会の皆様の御力を拝借し、今年度中の開催実現に向けた動きを事務局といたしましても取っていきたいと考えております。



春節セミナー 大沼会長挨拶

理事会・総会の閉会后、協会員だけではなく、会員以外の方々の参加の対象としまして、春節セミナーを例年通り、開催いたしました。春節セミナーでは、来賓や講師の方々、メディアの方々を含めると、90名に近い皆様にご出席をいただくことができ、誠に盛況の中、会を運ぶことができました。今年度の春節セミナーでは、協会員や香港とビジネスに関わりのある、従前より当協会と関係や接点を持っている方々だけではなく、今回初めて春節セミナーに興味を持っていただいた方々からの参加やお問い合わせが少なくありませんでした。日本国内でも新聞やテレビ、ネットニュースなどで数多く報道されている通り、昨年から続く香港市民の民主化デモ、またそれによるビジネスや観光への影響、香港と中国本土との関係、また今年が東京オリンピック開催年（本稿執筆時点では、来年に開催が延期されました）であることから、香港や山形日本香港協会の活動に興味関心を持たれた方が多くいた結果なのではないかと思っております。私が事務局に参加してから約3年になりますが、これまで

関わった春節セミナーで最も多く一般の方々に関心を持っていただいたものになったと思います。

セミナーでは、第一部講演として、東京大学准教授（当時）の阿古智子氏を講師にお招きし、「香港のデモを通して考える社会の分断と民主・自由の行方」と題して、昨年から続く香港の民主化デモの影響、現在の香港を取り巻く政治経済の最新状況、民主化デモの今後の見通しについて、大変貴重なお話をいただくことができました。

続いて、第二部講演として、香港日本人商工会議所・香港日本人倶楽部の柳生政一事務局長を講師にお招きし、「香港の最新状況－ビジネスチャンスを見逃すな！」と題して、



春節セミナー 柳生事務局長講演

現在、香港に暮らされている柳生事務局長の実体験や現地にいることでしか掴むことのできない本当の香港の状況、香港市民の考えについて、大変参考となるお話をいただきました。また、ちょうど新型コロナウイルスの世界的な流行が危惧されている中でしたので、SARSやMERSの経験から、ウイルス対策への実績や知見のある香港政府の施策についても、様々なデータに基づいて、お話をいただきました。セミナーの参加者には、山形県議会議員や市町村議員、自治体関係者も数多くいらっしゃいましたので、特に大きな関心をもって講演を聞かれたようでした。

今年のセミナーでは、阿古准教授の学術的な研究やフィールドワークに基づく専門的な内容の講演、柳生事務局長による香港現地の生の声あるいはビジネス的な観点からの講演と、両方の側面からの話を聞くことができ、大変満足いくものとなりました。

最後の春節パーティーにおいては、セミナーに引き続き、多くの方々にご参会いただき、盛況のうちに終了いたしました。パーティーの乾杯の挨拶を、東京オリンピックで香港のホストタウンとなっている米沢市の中川勝市長にお願いさせていただきました。新型コロナウイルスの影響により、来年に延期となってしまいましたが、東京オリンピックが無事開催され、香港選手が活躍されることを祈念し、結びとしたいと思います。



春節パーティー 中川米沢市長乾杯挨拶



北海道日本香港協会会長 石水 創

北海道日本香港協会 会長就任ご挨拶

このたび、前任の石井会長に代わり北海道日本香港協会の会長に就任いたしました。引続き、当協会の発展に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの世界的感染拡大により多くの国々が深刻な景気後退に陥っており、北海道でも活動自粛や観光客減少の影響で飲食業、観光業をはじめとして多くの企業が厳しい経営環境下にあります。日本政府の緊急事態宣言は解除されましたが、当協会でも感染拡大防止の観点から通常の活動は困難な状況にあります。



2月就任の石水創新会長

北海道日本香港協会は、北海道と香港の文化・経済交流を促進し、北海道と香港の架け橋となるべく2005年に設立されました。私が代表を務めます石屋製菓株式会社は2009年に法人会員として加入致しましたが、香港とビジネス上の関係をお持ちの方、香港に駐在経験がある方に限らず、香港に関心をお持ちの方々にも幅広く入会いただいております。主な活動として、例年さっぽろ雪まつりの初日に合わせて、道内から香港に進出している企業の方や大学教授など幅広い講師をお招きして、北海道と香港のビジネス拡大に向けたセミナーを行って



白い恋人パーク中庭ローズガーデン

ります。また、セミナー終了後には「香港のつどい」と題した華やかなパーティーを盛大に開催し、会員、関係者の皆様と親睦を深めております。

日本政府観光局（JNTO）によると、昨年香港からの訪日客数は前年比3.8%増、過去最高の229万人に達しました。北海道にも多くの香港の方が、スキーや自転車、登山など雄大な自然を生かしたアクティビティーや、新鮮なミルクから作られたスイーツ、エビ、カニ、ウニ、イクラに代表される海産品、ジャガイモ・玉ねぎをはじめとした農産品など安心・安全な食を求め訪れており、私どもが運営しております「白い恋人パーク」にも多くの香港の方々にお越しいただいております。

1990年10月に開設されたキャセイパシフィック航空の新千歳～香港直行便が新型コロナウイルスの影響で運休するなど、現状交流を深めるには厳しい環境にありますが、北海道日本香港協会が香港とのビジネス・文化交流の架け橋としての機能を発揮できるよう、関係諸機関との連携や会員の増強に努めてまいりますので、みなさまの格別のご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。



白い恋人パーク外観と宮の沢白い恋人サッカー場



白い恋人パーク内ショップ・ピカデリー



宮城日本香港協会 事務局

本協会に「学生部」が誕生！ 様々な活動を展開しています

本年3月、本協会に新たに学生部が誕生しました。本県在住の「香港大好き学生」がメンバーで、香港からの留学生も入っています。



本協会学生部メンバーです

最初の活動はやはり「食」です。3月14日（土）「西米露・香港スタイルタピオカ料理クラス」と題して25名の参加のもと開催しました。西米露（広東語：サイマイロー）は香港の伝統的なタピオカのひとつで、おいしくて安い、その上作り方が簡単なデザートです。講師は香港出身の甘樂雯（ミッキー・カン）先生、当日はタピオカを煮るところから作り、ココナッツミルクと混ぜ、トッピングを入れて完成、みんなで一緒に食べながら香港に関するクイズゲームなどを楽しみました。

次は文化です。4月19日（日）「英会話で香港文化交流会：広東語と日本語由来の英語」と題して、11名の参加を得て開催しました。新型コロナ拡大防止のためZoomオンラインイベントとして開催。外来語に関するゲームをしながら、香港の植民地としての歴史から広東語の中にたくさんの英語外来語があること、逆に英語にも広東語外来語があることを学びました。

続いて5月2日（土）には、12名の参加者を得て広東語教室を開催。講師は仙台在住の香港人留学生、初めての

の人も多いことから、ゲームを通しての広東語と日本語の共通点を学び、最後に実践的に

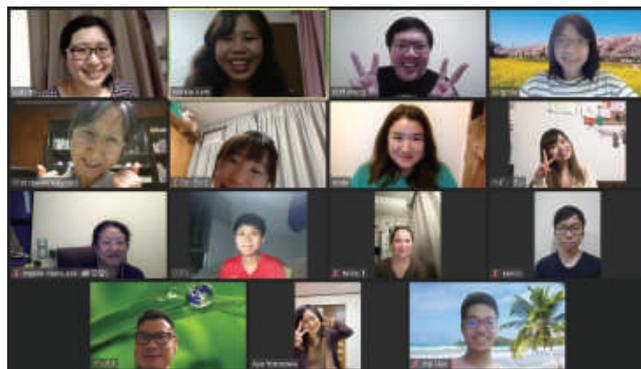


香港宮城交流会の宣伝ポスター

広東語で自己紹介を練習しました。

そして6月7日（日）には、香港の日本語学生と交流する香港宮城交流会を開催しました。香港に高い関心を持つ当協会学生部と日本文化や日本語に興味のある香港の学生との交流です。香港からは「日本人におすすめのお土産」として、香港ならではの特別な形のポケットティッシュや漢方薬、香水が紹介されました。日本からは「あつまれどうぶつの森」というゲームや疫病に効くという妖怪アマビエの紹介、そして宮城県のお土産として、やはりご当地キャラクター「むすび丸」のずんだクッキーや、人気お菓子「きのこの山」のずんだ風味などを紹介しました。

これからも学生部として、香港との交流を通しながら、香港の魅力を日本、中でも宮城の若い世代に伝えていきたいと思っています。



Zoom会議の状況です

アジアフォーラム2020に参加しました

6月16日（火）、「コロナウィルス感染症の拡大下のビジネスへの挑戦の機会と、米中の国際関係と香港の今後の行方」と題して、Zoomオンラインミーティング形式で開催され、当協会も参加させていただきました。

オーストラリアやニュージーランドの香港ビジネス協会理事の発表やHKTDCから香港の現状について率直な説明があり、コロナ感染拡大によりオンラインビジネスリモートワークがビジネス発展の大きな鍵になるとの方向性が示されました。当協会もその流れに沿って、会員のビジネスチャンス拡大に努力していきたいと思っています。



アジアフォーラムZoom会議の様子



沖縄日本香港協会 事務局

沖縄から香港への輸出の現況について

新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的に輸送手段の制約が続いていますが、沖縄発着の国際線航空便においても未だ再開の目処が立っていません。沖縄貨物ハブネットワークを活用していた県内企業は、代わりとなる輸送手段を模索していますが、輸出の低迷が続いている状況です。

この度、香港向け輸出動向の調査として、那覇商工会議所が発給している貿易証明書の発給状況を取り纏めました。

◆那覇商工会議所発給実績の比較

2020年3月頃から始まった国際線航空便の大幅な減便・運休の実施に伴い、香港向け「原産地証明」の発給件数は減少しています。取扱製品の傾向についても変化が見られ、花卉等の植物や健康器具等の一般機械は発給依頼が無くなり、牡蠣をはじめとする水産冷蔵食品の依頼も激減しています。ただし、加工食品や果物・野菜等の生鮮食品は増加傾向にあります（畜産物・酒類の割合が増しているのは、出荷が増えた訳では無く全体の件数が減少している為）。

しかしながら「衛生証明」の発給件数は微増しており、冷凍食品（水産物・牛肉）を主な取扱製品として、スーパーマーケット等の小売業者に向けた輸出が見られます。

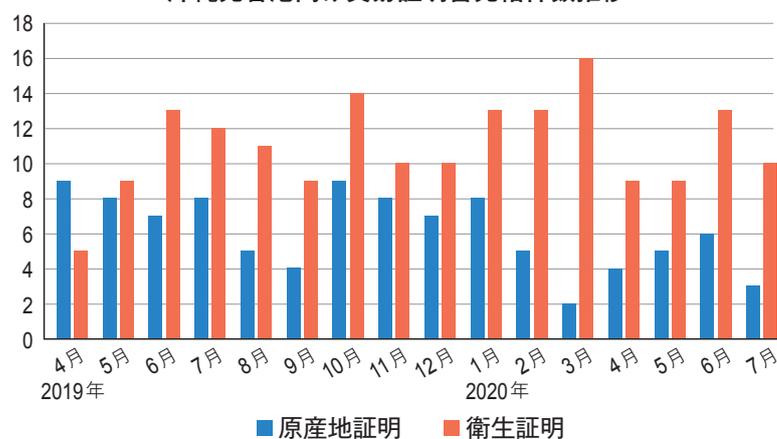
香港の外出産業は、昨年から続くデモの影響に加え新型コロナウイルス感染症の規制でより一層消費が低迷している背景があり、飲食店を取引先とする県内企業は苦戦を強いられています。売上が好調なスーパーマーケットを荷受人とする出荷については需要の拡大を感じます。

沖縄発着の国際線航空便は、依然として再開の見通しが立っておりません。香港向け航空輸送の代替手段として、成田空港や羽田空港を経由し出荷を行っている県内企業もありますが、通常よりもコストがかかる上にリードタイムにも遅れが生じる為、鮮度が求められる海産物・生鮮食品等については未だ回復が見込めない状況です。

沖縄県産品の輸出货量減少の打開策として、5月発行の飛龍94号で紹介した琉球通運株式会社の新たな取り組みである、那覇港総合物流センターを活用した香港向けの「冷凍混載貨物サービス」を利用し、沖縄県の補助を受けて小口混載の海上輸送に切り替えていく手段も有効であると考えます。

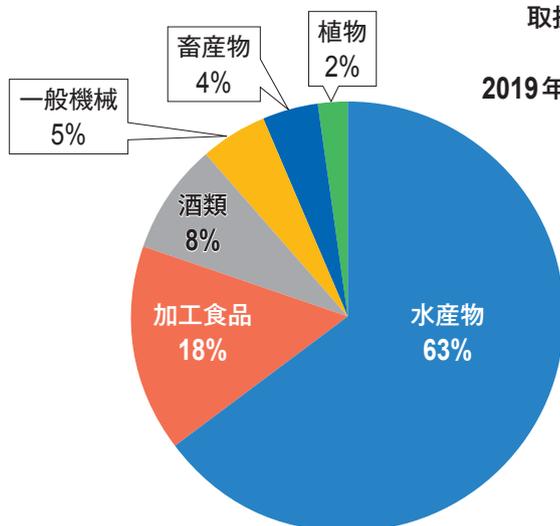
また、物流面を整えていくと同時に、新たな海外展開の形であるオンライン展示会等を積極的に利用して新規取引先の開拓を図り、沖縄と香港の相互発展の歩みを止めない事が大変重要です。沖縄日本香港協会としても、サポートしていきたいと思っております。

沖縄発香港向け貿易証明書発給件数推移

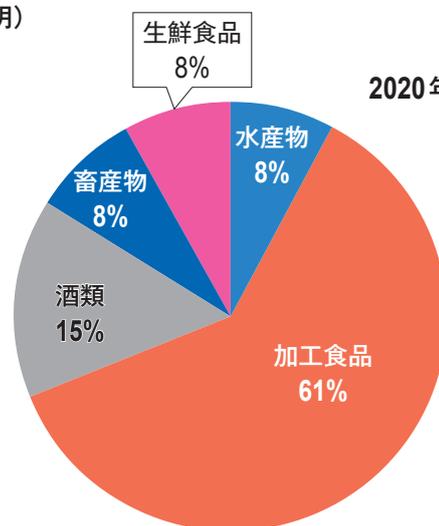


取扱製品（原産地証明）

2019年度



2020年度





広島日本香港協会 事務局

広島日本香港協会について

◆広島日本香港協会設立10周年

本協会は、県内企業の香港を通じた中国本土・アジア地域へのビジネスを支援するため、香港貿易発展局と連携し、ビジネスや経済交流に特化した組織として、当中四国地方では初めてのとなる全国で9番目の協会として2010年8月10日に設立いたしました。

おかげさまで、今年度は、本協会が設立して10周年という節目の年を迎えることができました。



広島日本香港協会設立総会(2010年)

◆協会活動

当協会では、この間、香港と広島の経済交流、人的交流が深まるよう、「広島にゆかりのある方との交流会」の他、「食品商談会」や「セミナーの開催」、また、香港で開催された「香港ブックフェア」への出展などの活動を行っています。

①広島にゆかりのある方との交流

毎年、「香港フォーラム」への経済代表団の派遣にあわせて、2012年から、香港広島県人会を中心に、現地



香港での交流会参加者の皆様(2018年)

企業の駐在員の方、広島にゆかりのある方にお集まりいただき交流会を開催し、現地情報の交換、香港におけるビジネスの利点や課題の把握、また参加者同士のネットワークの構築を図っております。

②香港バイヤーを招へいた食品商談会の開催

県内企業の商談機会の場として、香港のバイヤーを広島に招聘し、食品商談会を開催しております。香港への販路開拓も進み、今では牡蠣やレモンを用いた加工品など、多くの広島県産の食材を香港で目にする事ができるようになりました。



店頭に並ぶ広島県産牡蠣(2017年)

③セミナーの開催

会員に情報提供を行うため、要望が多いテーマを選定し、香港の最新経済情勢や増加する広島県へのインバウンド対策などのセミナーを開催しております。また、セミナー講師による個別相談会を開催することで、直接ビジネスにつながる取り組みも行っております。

④香港ブックフェア

2016年に開催された「香港ブックフェア」に広島県の団体として初めて出展しました。

開催期間中、県内の廿日市市が発祥の地である「けん玉体験」や、しまなみの風景映像を見ながらのサイクリング体験では、風光明媚なしまなみ海道と沿線の観光を紹介し、新たな広島の文化や魅力を広く伝えることができました。



香港ブックフェア
広島県ブース(2016年)

◆香港からの観光客の増加

広島日本香港協会の設立以降の10年間で、広島と香港をつなぐ人的な交流も今まで以上に活発になってきています。

特に大きく変化したのは、香港から広島への観光客数の増加です。設立した2010年の観光客数はわずか2,060人でしたが、2015年の広島・香港間の定期便の再開や中四国初のLCCとして定期便の就航を契機として急激に増加し、2016年以降、毎年10万人を超えるようになり、昨年は、101,847人と設立時の約50倍となるなど、多くの香港の方が広島を訪れております。

広島と香港との往來の増加により、お互いの地を訪れた観光客やビジネスマンは、それぞれの地域に暮らす人々のことをより深く知る事ができ、広島と香港とのお互いの理解をより深めることに繋がったものと思います。

◆今後の活動

当協会は、「香港との相互理解と友好を促進し、もって経済の交流に資すること」を目的に活動しております。現在は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大や、香港をめぐる社会経済情勢により、様々な環境変化に直面しておりますが、今後も変化に的確に対応しながら、香港貿易発展局等の関係機関とも十分な連携を図り、広島と香港との経済交流、人的交流が一層深まるよう、取組を進めてまいります。

広島県の香港人観光客数動向

	2010 (A)	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (B)	2010→2019 年の伸び率 (B/A)
香港(人)	2,060	3,042	5,296	14,491	17,636	59,851	173,187	147,005	133,279	101,847	
前年対比(%)	26.4	47.7	74.1	173.6	21.7	239.4	189.4	▲15.1	▲9.3	▲23.6	4944

出典：広島県「広島県観光客数の動向」



新潟日本香港協会 事務局 渡邊 明子

4月より、新潟日本香港協会の事務局を担当させていただくことになりました、渡邊と申します。地元の新潟と香港のビジネスネットワークの強化や双方の魅力の発信に貢献できるよう、尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私は海外旅行が好きで、香港には初めての1人旅で1度訪れたことがあります。旅行地に香港を選んだのは大学時代に沢木耕太郎氏の紀行『深夜特急』を読んだことがきっかけです。沢木氏が旅の最初に訪れた地が香港で、血が騒ぐような香港の熱気に魅了されていた描写はとても印象的でした。沢木氏が香港を訪れてから約40年がたった現在はその地はどうなっているのか、私も沢木氏のように血の騒ぐ旅ができるのかどうかとても興味を持ち、一人旅に行く機会があったらまず香港に行こう、と決めました。そして数年後の2019年3月によく実現しました。実際に訪れた香港の街は賑やかで活気が溢れていて、とても刺激的なものでした。沢木氏が見た香港は、私が見た香港とはずいぶん異なると思いますが、それでも熱気は健在で、黄大仙などのスポットやビクトリアピークの眺めも素晴らしく、私も香港という地に魅了されました。その時から香港は私にとって特別な場所のひとつになっています。

まだ香港のほんの一部しか訪れたことがないので、またあの魅力あふれる香港に行ける機会を心待ちにしております。デモや昨今の新型コロナウイルスの影響もあり、足を運ぶことができるのはまだしばらく先になりそうですが、一刻も早く事態が好転し香港フォーラムにて皆様にご会えることを願っております。



ビクトリアピークからの眺め

令和2年度通常総会 書面決議にて実施

新潟日本香港協会では毎年5月に通常総会を実施しております。その際に、例年セミナーや懇親会を併催し、多くの会員の方々に参加していただいておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、書面決議にて通常総会を実施する形になりました。新潟においては、7月現在では新型コロナウイルスの感染拡



香港の街並み

大は収まってきておりますが、いまだ首都圏等では収束の目途は立っていないため、セミナー・イベントの開催等の判断は慎重にせざるを得ない状況です。このような状況下で、新型コロナウイルスの感染拡大対策として、オンラインセミナーなど新しい生活様式も定着してきております。新潟日本香港協会といたしましては、セミナー等を中心にオンラインも積極的に活用し、情報発信・共有を効率よく効果的に行えるよう、新しい生活様式にも対応していきたいと思っております。

新潟-香港季節定期便が
2019年11月～2020年3月に運航

2019年より季節定期便として新潟-香港線が就航しましたが、2月に入ってからには新型コロナウイルスの影響で利用が落ち込み、3月末までの予定だった運航が前倒しで3月4日に終了しました。この季節定期便の利用者の9割は香港からの観光客で、1月に入ってからにはスキー目当てで訪れる利用者が多かったそうです。今年は新型コロナウイルスだけでなく少雪の影響もあり、新潟県のスキー場利用者数は去年と比べて33%減少となりましたが、外国人利用客は去年より微増という結果でした。

新潟空港の国際便全体では、前年度比87.6%と利用は落ち込みました。新型コロナウイルス感染拡大や、7月からの日韓関係の悪化、台北線を運航していた遠東航空の運航停止等の影響がありこのような結果となったものと思われまます。

ただ、インバウンド中心に新潟-香港便は1月までは好調な結果だったことやスキーの外国人客は増加していたことを踏まえ、新潟の冬の魅力の認知度は徐々に海外でも向上しているかと思えます。新型コロナウイルス収束後にはまた香港との定期便が運航し、将来的には通年運航され、四季折々の新潟の魅力を知っていただけることを切望しております。



高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

高知日本香港協会 2020 年度始動！

最初に、現在世界中を震撼させている「新型コロナウイルス感染症」でお亡くなりになられた方々、また罹患されている方々に対し心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。あわせまして、経済的に大きな打撃を受けている各企業、各個人の皆さまにも心からお見舞いを申し上げます。

高知協会におきましても、4月、5月に予定をしておりましたセミナー事業、また理事会、総会等、諸会議においては延期を余儀なくされてきましたが、状況を鑑みながら先般7月7日に当初の予定より約2ヶ月遅れで、本年度の総会開催をすることができました。久しぶりの再会を喜ばれる中、やはり状況の厳しさに会員一同憂慮されており、今後の課題についても多くの情報交換や情報共有を行うことができました。全国的にも厳しい状況下ではありますが、森本会長を先頭に出来ることを模索しながら2020年度を乗り越えていく所存でございます。

さて、高知協会の2019年度を振り返りますと、期首会員数46名のスタートで、途中退会者が数名いたものの期末には66名まで増加をすることができました。昨年度の目標である80名にはとどきませんでしたがお蔭様で香港フォーラムにおきましても3年連続でアワードを獲得することができました。森本会長就任後の会員数は、29名→46名→66名（法人27社、個人39名）と増加の一途を辿っており、セミナー事業や食の企画では会員外の参加者が多いのも特徴と言えます。2020年度は会員数80名を目標としております。

また特別顧問として、高知県副知事、高知県議会議員、元高知県議会議員、高知市副市長にご就任をいただいております。高知の行政や経済界においても一定の認知をいただいているところで。

去る7月7日の総会においては、全ての議案に対し参加者全会一致で承認を得ました。

総会後は、海外で実際にビジネス展開をしている、会員によるリレーセミナーを開催。徳弘副会長からハワイでのウエディングビジネスの実例と今後の可能性、仲井副会長からベトナムにおけるビジネスと雇用事業の展開、濱田イベント企画副委員長から台湾の現状や楽しみ方、宮本理事からはタイでの旅行スタイルや街の活気など、それぞれから自身の経験を元楽しく発表をいただきました。予定をしていた時間では足りず、参加会員からも多くの好評を得ることができました。香港協会でのビジネス展開や人脈構築は広くアジアに向いているものと感じております。

また現在メディアにおいても大きく報道がなされております、香港特別行政区国家安全維持法についても多くの会員から心配の声があがっており、森本会長、並びに張樹榮副会長から香港の現状についても説明がありました。香港内での現状と我々の情報では隔たりもあるように感じますが、香港の発展と日本との友好的な関係性が向上をすることを強く願っております。

昨年末には予想だにできなかった現在の世界情勢の中、新しい生活様式により様々な変化をまさに目の当たりにしておりますが、多くの方が口にするように、ピンチの中にチャンスあり。この状況の変化に対応するには全国の会員との情報交換も必要であります。全国的に厳しい状況ではありますが、来年度の総会の折には、この状況があったからこそその良い結果に結びつくよう活動をしてまいります。

日本香港協会全国連合会に所属する各地協会におかれましても益々のご発展と、各会員のご活躍を心からお祈りしております。

共に乗り越えていきましょう！



総会後のリレーセミナー



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪府中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜斎内

九州日本香港協会 電話 (080) 6450-5827
(事務局長 チェ)
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0842 高知市追手筋2-6-9 大手門ビル3階西
株式会社オルトル内



ホテル開業40周年
2020年9月15日

2020年9月15日、ハイアットリージェンシー東京は
おかげさまでホテル開業40周年を迎えます。

ハイアットリージェンシー東京
160-0023 東京都新宿区西新宿2-7-2
T 03 3348 1234 tokyo.regency.hyatt.com

The HYATT trademark and related marks are trademarks of Hyatt Corporation or its affiliates.
©2020 Hyatt Corporation. All rights reserved.



HYATT
REGENCY